

銀行共通API開発研究会

記者会見資料

2020年12月1日

一般社団法人フィンテックガーデン

実は19年前から何も進んでいない

「アカウント・アグリゲーション」を知っていますか？

本間康裕



2001.12.21



「アカウント・アグリゲーション」という言葉を、聞いたことがおありだろうか。日本語で「口座集約」というような意味だ。一つのアカウントで、銀行や証券などの金融サービスやEC（電子商取引）サイト、航空会社のマイレージなどのポイント・サービス・サイトに出入りしたり、情報を同時に一画面で閲覧したりできる大変便利なサービスである。日経ネットビジネス12月25日号に特集記事を掲載するため取材をしたが、実に多くの企業がこのサービスに参入しようとしているのに驚いた。

仕組みはこうだ。様々なネット上のサービスに対応するIDやパスワードを、アカウント・アグリゲーションを提供しているWebサイトで登録すると、新たな統合アカウント（IDとパスワード）をもらえる。これだけで、すべてのWebサイトの情報を見たり、出入りしたりできるようになる。

情報を閲覧する際は、サーバー側のロボット・プログラムが顧客が事前登録したIDとパスワードを使って、対象となる複数のWebサイトにログインして情報を取得

アカウント・アグリゲーション・サービス

一つのアカウントで、銀行や証券などの金融サービスやEC（電子商取引）サイト、航空会社のマイレージなどのポイント・サービス・サイトに出入りしたり情報を同時に一画面で閲覧したりできる。

2020年12月1日現在、
まだ実現していない

出典:日経xネット

そして2020年。今どうなっているのか

現在のアグリゲーションの現状

2019年以前

アグリゲーション企業（金融機関のデータを収集し表示する企業）は、顧客からの要望によって金融機関のデータを取得。

2019年5月

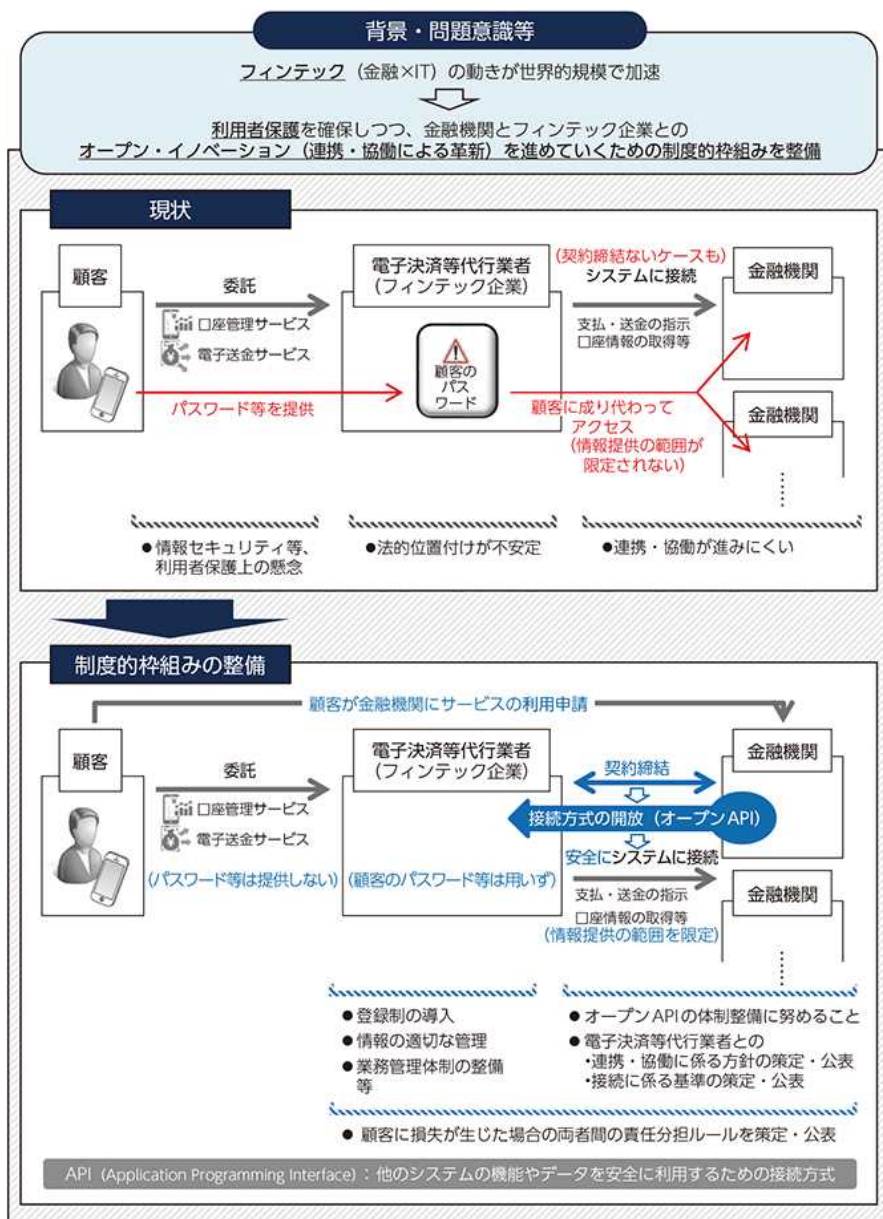
金融庁

- ①2020年5月※までに銀行と契約をすること
- ②金融機関との接続はAPI接続が望ましい

※コロナの関係で期限は半年延長

API

アプリケーション・プログラミング・インターフェイス。
異なるプログラム間でデータの連携を行うための窓口



出典:金融庁「平成28事務年度金融レポート」

アグリゲーション企業の焦り

金融機関データを収集する企業の対応

- ・1年以内にシステム開発をしなければならない
- ・1年以内に全銀行と契約しなければならない



1年しか期限が無いため、国内すべての銀行のシステムにあわせてAPIを作成しなければ時間切れになる。
しかも個人口座と法人口座は異なるAPIのため別々にシステムを開発しなければならない



各社はとにかく期限までに完成する事を目標にシステム開発をスタートした

日本の金融機関の数

そして各社は全く同じシステムを競い合うように作成した

金融機関数は 8 7 3 (証券会社を除く)

出典：財務省ホームページ 令和2年11月6日現在

作成したシステム数は 2 8 0

※個人・法人合計

※作成数はアグリゲーション企業により異なる

※金融機関により同一システムの場合もあるため
システム開発数は金融機関の数よりは少ない

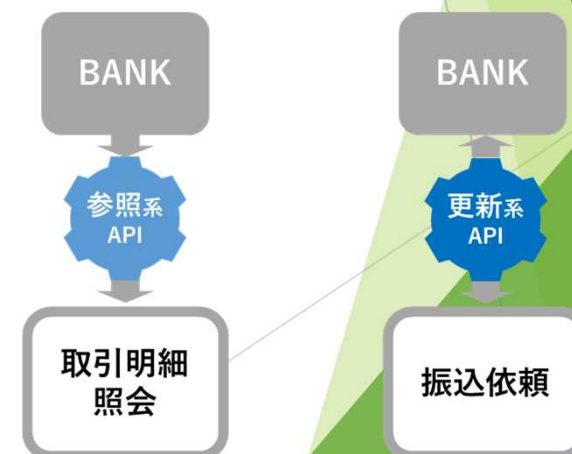
問題点

このままだと日本はまた「I Tガラパゴス」状態になる

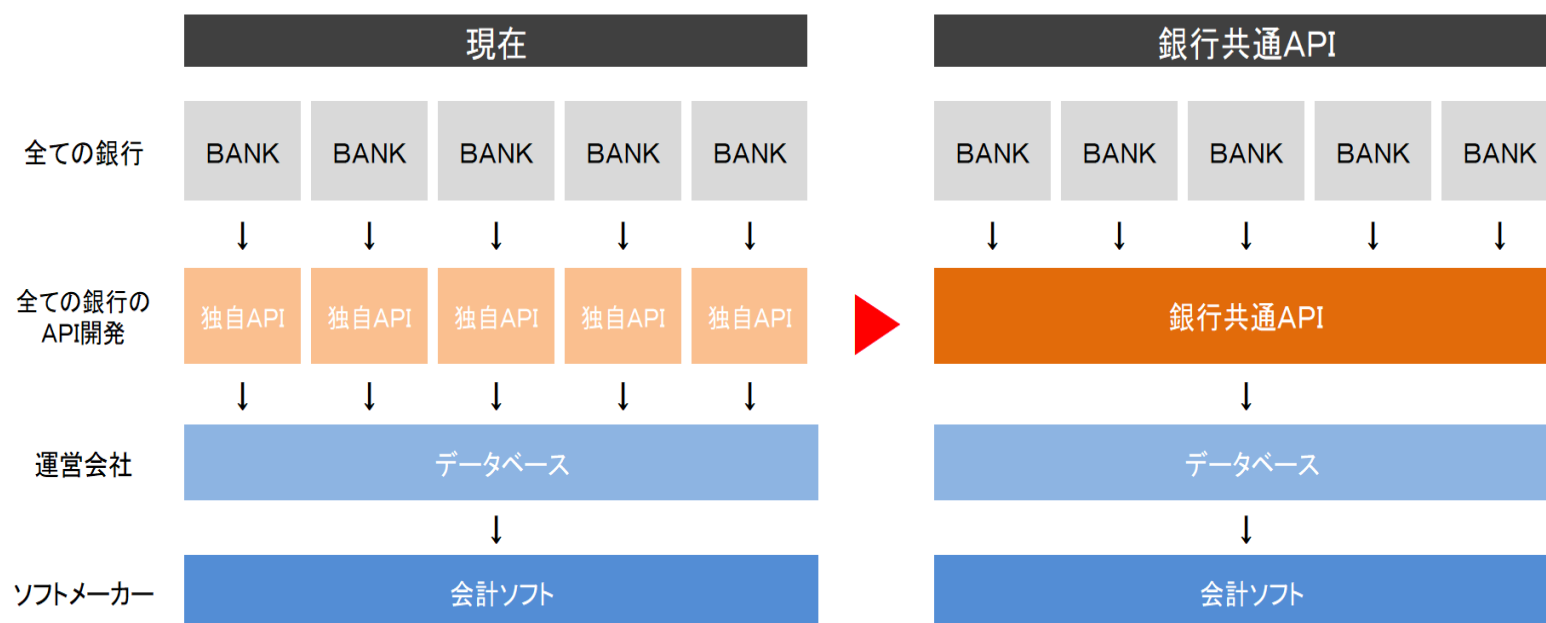
全銀行の参照系 A P I
全銀行の更新系 A P I
将来発表される金融新商品の A P I
世界の銀行との A P I 連携
エンドレス...

いったい、いくつの A P I を開発すればよいのか

- ※「参照系（AISP）」・・・口座情報取得サービス
（自分の口座を見ることができる）
- ※「更新系（PISP）」・・・決済指図伝達サービス
（顧客の委託により送金等を指示する）



個別APIから共通APIへ



銀行共通 A P I のメリット

なぜ銀行共通 A P I を作成するのか

- ・ **銀行ごとに A P I を作成する必要がない**
各社が競い合って数百もの同じ A P I を作成する事は
時間と労力の無駄。バグが出たら収拾不能。
- ・ **国内フィンテックビジネスの活性化**
大手はもとよりベンチャー企業や起業家でも
フィンテックビジネスに参加しやすくなる
- ・ **更新系システム開発の加速**
今後、必ず作成しなければならない更新系システムの
開発が容易になる
- ・ **日本の復活**
日本が世界のフィンテックビジネスに参加できる。
今ならまだ間に合う

研究会のロードマップ

銀行共通 A P I の開発ロードマップ

参加企業と銀行共通 A P I の仕様を検討：「2020年12月初旬」



銀行共通 A P I の仕様書を作成：「2020年12月下旬」



銀行共通 A P I （Ver.1 モック）を作成：「2021年1月」



仕様書の無償提供（金融機関・関係省庁・関係官庁）：「2021年3月上旬」

銀行共通 A P I 研究会 参加企業

参加企業数 26 (社・団体)

銀行共通 A P I 研究会 参加社一覧(50音順) 事業詳細は別紙

- ・ 株式会社アイパワー
- ・ エプソン販売株式会社
- ・ C U O S 株式会社
- ・ クラウドインボイス株式会社
- ・ 株式会社シスプラ
- ・ 辻・本郷税理士法人
- ・ 株式会社TBSビジネス・ソリューション・テクノロジー
- ・ 株式会社ティー・ワイ・ソリューションズ
- ・ 日本情報開発株式会社
- ・ 日本ビズアップ株式会社
- ・ ファーストアカウンティング株式会社
- ・ バンカーズ・ビジネス・ソリューションズ株式会社
- ・ 一般社団法人フィンテックガーデン
- ・ 株式会社フリーウェイジャパン
- ・ 山中ソフトウェア製作所
- ・ アークテクト株式会社
- ・ 株式会社 カーム
- ・ 株式会社クラウドアシストサービス
- ・ 株式会社佐山経済研究所
- ・ 株式会社スマイルワークス
- ・ 株式会社タテムラ
- ・ 日本情報振興協同組合
- ・ 株式会社HAYAWAZA
- ・ フィンテックを考える税理士の会
- ・ 株式会社 M A P 経営
- ・ 株式会社 ROBOT PAYMENT

銀行共通 A P I 研究会

代表

井上 達也（株式会社フリーウェイジャパン 代表取締役）

日本デジタル研究所を経て1991年に同社を設立。1980年からマイコン（現在のパソコン）でプログラミングを行う。同社は経理・勤怠クラウドシステムなどを開発し34万ユーザーにシステムを提供している。国内の最高レベル技術者による技術研究組織、一般社団法人フィンテックガーデンの設立メンバーに加わる。

金融部門 最高情報システム責任者

大場 昌晴（バンカーズ・ビジネス・ソリューションズ株式会社 代表取締役）

1980年住友銀行（現三井住友銀行）に入行。企業取引や融資部門で作業の効率化の為にITシステムを独自開発。富裕層へのコンサルティング業務の傍ら、銀行内部の手続きやシステム改善に尽力する。34年間に渡り住友銀行で得た会計、税務知識、コンサルティングノウハウ、IT技術を融合させた新しいシステムを開発するため、2014年に同社を設立。

開発部門 最高技術責任者

佐山 宇宏（株式会社佐山経済研究所 代表取締役）

日本アイ・ビー・エム、Microsoft を経て、2010 年からクラウド経費精算システムの米国 SAP Concur 日本支社において、執行役員最高技術責任者（CTO）に着任。2013年から英国クラウド経費精算システムの Freedom 日本支社において、執行役員最高技術責任者（CTO）に着任。現在、経費精算システムの開発コンサルティングを行う。

一般社団法人フィンテックガーデン

▶ 本会の取りまとめを行う一般社団法人フィンテックガーデンは、企業間の垣根を超え高いレベルの技術者だけを集めた技術研究組織として設立されました。フィンテックアワードの開催を始め、APIやフィンテックシステムをSierやプログラマ、企業が自由に利用できるプラットフォーム、データベースを順次公開していきます。

フィンテックガーデンの目的

- ・フィンテックシステム開発者の支援
- ・共通プラットフォームの実現

▶代表 義永 洋士

国立大学法人、豊橋技術科学大学大学院卒。
制御系システム開発技術の研究者として安川電機、
ロータス株式会社、インテュイット株式会社
(現：弥生)を経て一般社団法人フィンテック
ガーデンを設立。学术论文に「誤りを含んだ音素
系列からの候補単語の検索」等がある。

一般社団法人フィンテックガーデン
東京都千代田区神田須田町2-8ASKビル7階
TEL 03-6260-9506

<https://fintech-garden.com/>



設立主旨 活動状況 入会案内



NEWS

2020.11.20

お知らせ

「銀行共通API開発研究会」の発足に向けて

